

日赤県支部の
救護班 広島へ
日本赤十字社県支部
は15日、西日本豪雨で
被災した広島県に派遣
する救護班の出発式を

静岡市葵区の静岡赤十字病院で行った。医師、看護師、薬剤師ら計7人が広島県呉市安浦地区に向け出発した。16日から18日までの予定で、避難所を拠点に救護活動を行う。

出発式では磯部潔院長が「被災者の気持ちに寄り添う救護をしてほしい」とメンバーを激励した。拠点となる避難所の「安浦まちづくりセンター」は電気や水道などのライフラ



磯部潔院長（左）から激励を受ける救護班のメンバー
＝15日午前、静岡市葵区の静岡赤十字病院

インは確保されていて、既に名古屋市から派遣された同社の救護班が活動している。
班長を務める同病院救急課の青木基樹医師（42）は「常備薬の不足や復旧作業でのけがなどが想定される。避難者だけでなく地域の医療ニーズを探りながら、できる限り対応したい」と語った。